

日本科学者会議

第36回原子力発電問題全国シンポジウム 5年目の福島原発事故～原発再稼働と加害者責任～

福島第一原発事故から5年目、事故現場では事故炉（1～3号機）の廃止措置をめざして、懸命の準備作業が行われています。汚染水問題では濃縮塩水の浄化が進展する一方、1日当たり300トンとされる建屋地下への地下水の流入が続いています。また、2015年5月現在、11万2000人も住民がなお県内外で避難生活をしています。除染がなかなか進展せず帰還の見通しの立たない地域がある一方、一部の避難指示区域ではその解除が行われるとともに、居住制限区域から避難指示解除準備区域への見直しも行われています。環境の放射能汚染、住民の放射線被曝に関する多くの調査結果が発表されるようになり、災害の大きさを評価するデータがかなり出ています。

安倍内閣は電力業界、原子力業界と一体となって原発の再稼働をめざしています。2012年9月に発足した原子力規制委員会は、新規制基準に基づく原発の安全審査を2013年7月から開始しました。電力業界は現在までに15原発25基の審査を申請済みです。再稼働の一番手とみなされているのが九州電力㈱の川内原発1号機と2号機です。現在、使用前検査と呼ばれる設備検査が行われており、九州電力㈱は川内1号機を8月中旬、同2号機を9月下旬に再稼働させると発表しています。福島原発事故の収束と加害者責任を曖昧にしたままでの再稼働など許されません。

今回の原子力発電問題全国シンポジウムでは、原発再稼働と加害者責任をメインテーマに据え、自然科学的視点、社会科学視点を両面から討論をします。各地の再稼働をめぐる状況についても討論の中で報告していただきます。ぜひ多くの方々の参加を呼びかけます。

主催 日本科学者会議原子力問題研究委員会

日程 8月29日（土）～30日（日）

第1日 14:00～18:00

18:15～20:00 懇親交流会

第2日 9:30～13:00

会場 日本大学歯学部2号館地下1階第一講堂（両日とも）

内容 (演題は仮題です)

開会のあいさつ

1. 原発再稼働をめぐる（1日目）

(1) 元メーカー技術者から見た原発再稼働について — 後藤政志（元東芝格納容器設計者）

(2) 福島事故の教訓と原発再稼働問題 — 田辺文也（元日本原子力研究開発機構）

(3) 新規制基準と原発再稼働 — 舘野淳（元日本原子力研究所、元中央大学）

(4) 討論（含む各地の原発再稼働をめぐる状況報告）

2. 加害者責任をめぐる～誰が責任をとるのか～（2日目）

(1) 原子力損害賠償制度改定 — 本間照光（青山学院大学）

(2) 金融機関の破綻処理から見た福島原発事故の責任論 — 米田貢（中央大学）

(3) 福島県民の立場から見た福島原発事故の責任論 — 清水修二（福島大学）

(4) 討論

閉会のあいさつ

◆参加資格 どなたでも参加できます。

◆参加費 1,000円（資料集代を含む）。当日、受付でいただきます。

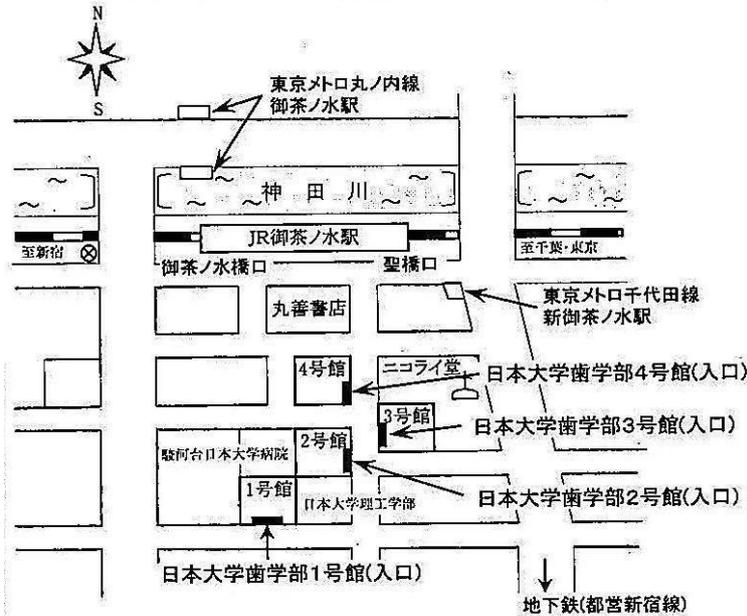
◆参加申込 準備の都合上、事前にお申込みいただきたいと思いますが、当日参加もできます。シンポジウムにご参加の方は、申込書に必要事項を記入して、なるべく早く実行委員会へご送付ください（FAX または E-Mail）。もちろん、当日のご参加も受け付けますが、準備のため、事前申し込みにご協力ください。

◆その他 宿泊の必要な方は、宿泊先（ホテル・旅館）を各自ご手配ください。

◆シンポジウムの進め方

- ・プログラムのように分科会方式はとらず、すべて全体会で行います。
- ・時間は限られますが、会場からも積極的な発言を期待します。発言はお一人3分以内でお願いします（時間厳守）。

◆問合先・申込先 E-Mail : [noguchi.kunikazu\(アット\)nihon-u.ac.jp](mailto:noguchi.kunikazu@nihon-u.ac.jp) / FAX 03-3219-8344



参加申込書

氏名：	勤務先・所属など：
連絡先：〒	
<p>該当する箇所に○をつけてください。</p> <p>・ 29日（土）シンポに参加 ・ 30日（日）シンポに参加 ・ 懇親交流会に参加</p>	
TEL:	FAX: